昆虫類　＜チョウ目　シジミチョウ科＞　　愛知県：絶滅危惧ⅠA類（国：リスト外）
INSECTA　＜LEPIDOPTERA　LYCAENIDAE＞　　AICHI：CR　　(JAPAN：－)

ハヤシミドリシジミ　*Favonius ultramarinus* (Fixsen)

【選定理由】

愛知県では、1960 年に豊田市（旧旭町）で始めて記録された（小林, 1961）。本種は、豊田市旭地区のカシワの生育する地域に生息が限られる。近年、混交林の繁茂や管理放棄に伴いカシワの生育が不全となり、カシワそのものが減少するに従い本種の個体数も減少している。1997 年から 3 年間にわたって旧旭町全域でチョウ類の見直し調査が行われ、1999 年に越冬卵が再確認された（高橋ほか, 2001）が、環境の変化がさらに進み生息は一層厳しくなっている。

【形　態】

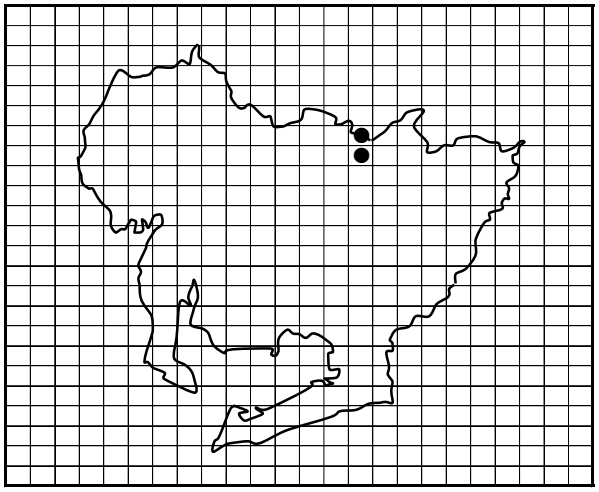
前翅長 21mm 程度。エゾミドリシジミに似るがやや大型である。♂の前翅外縁は丸みを帯びる。♀の前翅表の灰白色の斑は、オオミドリシジミ属の中ではもっとも強くあらわれる。近似種とは、♂の表面黒縁の太さなどで判別するが、熟練を要する。

【分布の概要】

【県内の分布】

豊田市（旧旭町）の太田・八幡・榎本・伊熊・明賀・伯母沢地区など、限られた地域に生育するカシワに依存して生息している。そのため、この地域が本県の唯一の分布地となっている。

県内分布図



【国内の分布】

北海道、本州、九州に分布する。四国には産しない。食樹のカシワの分布に制約されるため、その産地はいずれの地方においても局地的である。三重県からは確実な記録がない。

【世界の分布】

ロシア南東部、朝鮮半島、中国東北部および中部～西部に分布する。

【生息地の環境／生態的特性】

カシワは、豊田市旭町内の限られた地区に点在して生育している。しかし、大木は伐採され、周辺は繁茂が進んだため、カシワは成長不良となり生息環境は悪化している。

本種は、年 1 回、6 月中～7 月上旬に発生する。つねにカシワの樹林に生息し、群生する場合が多い。卵は食樹の 1～2 年枝上に 1、2 個ずつ産卵される。卵で越冬する。幼虫には多型があり、黒褐色・赤褐色・灰褐色のものが見られる。

【現在の生息状況／減少の要因】

本県では、1960 年に初めて確認されているものの、それ以降もカシワ林の伐採や混交林の繁茂のため、個体数は減り続けている。林縁に残ったカシワに依存して、細々と生息している。

近隣の矢作川を挟んだ北部に位置する岐阜県串原町、明智町、上矢作町にも本種は生息するが、当地と同じようにカシワの伐採や混交林の繁茂や管理放棄で個体数は減っている（巣瀬ほか, 2003）。

【保全上の留意点】

カシワに依存しているので、まずカシワの保全が必要不可欠である。限られた狭い地域であることも考慮して、周辺全体の多様性を意識した環境保全が望ましい。

【引用文献】

小林広成, 1961. ハヤシミドリシジミ，ヒョウモンモドキ三河に産する. 佳香蝶, 13 (46): 94.

巣瀬 司ほか, 2003. 22. 愛知県. 日本産蝶類の衰亡と保護第 5 集. 日本産蝶類県別レッドデータ・リスト(2002 年): 82-87. 日本鱗翅学会, 東京.

高橋匡司ほか, 2001. 旭町のチョウ類. 旭町の昆虫: 253. (財)旭高原自然活用村協会.

【関連文献】

白水 隆, 2006. ハヤシミドリシジミ. 日本産蝶類標準図鑑: 112. 学習研究社, 東京.

（2009 年版を一部修正）